

高経年化技術評価：60年運転を前提とし原子炉施設の安全上重要な機器及び構造物を対象※に、疲労や中性子照射脆化等の経年事象に対する健全性評価、ならびに、現状保守管理の有効性を確認

※冷温停止状態維持に必要な機器(1,2号とも約2,400)、60年運転を前提とした原子炉施設の安全上重要な機器及び構造物(約3,100(1号)、約3,000(2号))

技術評価の結果(例)と保守管理に関する方針

青字:長期保守管理方針

【原子炉容器の中性子照射脆化】

過去4回の監視試験片調査(脆化予測)により、中性子照射脆化が構造健全性上、問題とならないこと、現状保全の適切性を確認

⇒第5回監視試験片調査を実施

【配管等の低サイクル疲労】

損傷発生の可能性はないことを確認
現状の保全の適切性を確認

⇒運転実績を踏まえた評価を継続

【ケーブルの絶縁低下】

通常運転時及び事故時模擬試験にて、絶縁機能に問題のないことを確認

⇒絶縁抵抗測定等の保全活動を継続

【電気ペネトレーション※】

定期的な絶縁抵抗測定等、及び実機相当品の試験により長期健全性を確認

⇒現状の保全活動を継続

⇒実機と同一のペネトレーションの試験又は取替えを実施

※信号等を送受するケーブル用に設けた原子炉格納容器の貫通部のこと

【2次系炭素鋼配管】

現状の配管減肉管理(肉厚測定、評価、取替)が適切であること、減肉を想定した耐震安全性を確認

⇒今後も同様の配管減肉管理を継続

⇒抽気系統配管等に対してサポート改造及び耐震安全性評価を実施

